

東日本大震災により被災した児童生徒の 学校における受け入れ状況について【Q & A】

問 1 福島県から避難してきた児童について、当初、福島県以外の A 県にある B 小学校において受け入れ、その後、同じ A 県内の C 小学校に転学した例がある。

この場合、「福島県から受け入れた数」と「都道府県内の学校から受け入れた数」のどちらに計上すべきか。

答 1 「福島県から受け入れた数」に計上してください。

本調査は、東日本大震災の影響により、どれだけの児童生徒が、当時通っていた学校から転学を余儀なくされたかを把握するための調査です。

把握可能な範囲で児童生徒が被災した当時どこの学校に通っていたのかを確認の上、回答してください。

なお、都道府県をまたいだ転学の場合も、同様の理由から、「福島県から受け入れた数」に計上することとなります。

問 2 ①宮城県から避難してきた児童 A を、平成 23 年 4 月に宮城県以外の B 県にある C 小学校において受け入れたが、同じ年の 10 月に宮城県の D 小学校に転学していった。

②その後、再度、同じ児童 A を B 県にある C 小学校において受け入れることとなった（東日本大震災の影響によるものであると確認されている。）。

この場合、B 県における児童 A の計上の仕方はどのように考えればよいか。

答 2 「宮城県から受け入れた数 1 名」として計上してください。

児童 A が宮城県から避難してきたことを踏まえ、令和元年 5 月 1 日現在で在籍している C 小学校の所在する B 県において、宮城県から受け入れた数として計上することとなります。

問 3 「事実上の就学」とは、どのような状況ですか。

答 3 住民票の異動や学校教育法施行令に定める区域外就学の手続きは行っていないが、授業に参加している場合を本調査において「事実上の就学」としています。